

日本一の宮崎牛を目指して

宮崎県立農業大学校

佐藤 登士夫

目次

- 一 第一一回全国和牛能力共進会「宮城大会」の概要
- 二 歴史と伝統の学校「宮崎県立高鍋農業高等学校」
- 三 畜産科学科の紹介
- 四 子牛の贈呈「みちみち五」号について
- 五 農業経営者育成を担う「明倫寮」
- 六 農業クラブ「肉用牛経営研究班」
- 七 高鍋農業高校の全共に向けた準備
- 八 児湯郡育成共進会グラウンドチャンピオン受賞
- 九 全共参加の成果
- 十 全共を終えて
- 十一 終わりに

一 第一一回全国和牛能力共進会「宮城大会」の概要

和牛の能力を競い合う全国和牛能力共進会が五年に一度開催されています。昨年度開催された宮城大会の概要は次のとおりです。

大会名称	第一一回全国和牛能力共進会宮城大会
主催	公益社団法人全国和牛登録協会
開催期間	平成二九年九月七日～九月一日
開催場所	種牛の部会場 仙台市「夢メッセみやぎ」 肉牛の部会場 仙台市「仙台市中央卸売市場食肉市場」
出品頭数	種牛の部 三三四頭 肉牛の部 一八三頭
開催テーマ	「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」
イベントテーマ	「感謝と美味しさ牛（ぎゅー）ツと込めて和牛の祭典二〇一七 「みやぎ」

今回は新たに、復興特別出品区「高校の部」が開催されました。その内容について、実施要項より抜粋します。

第一一回全国和牛能力共進会の付帯行事として、全国の農業高校から出品される区を設け、出品に向けた取り組みを通じて、わが国固有の肉専用種である和牛に対する理解を深め、和牛の将来を担う後継者の育成を図ることを目的として開催する。また、第一一回全国和牛能力共進会が東日本地域で開催されるにあたって、東日本大震災からの復興や明るい明日に向け、将来の担い手となる全国の農業高校生が一堂に会して、切磋琢磨し交流を深める様子を全国へ発信する。

「日時」

平成二九年九月七日（木） 一三時～一四時二〇分、一五時四〇分～一六時四〇分

「会場」

宮城県仙台市夢メッセみやぎ

「出品資格」

- ・自校で生産・飼育されている繁殖雌牛を出品する。
- ・出品時の生後月齢は、原則として全共の二区と三区に準ずる。（二四カ月～二〇カ月未満 生年月日 平成二八年一月八日～平成二八年七月七日）もの。

・出品牛の父牛は、道府県の改良方針に基づいた種雄牛であること。

「審査方法」

出品牛の審査序列と出品高校の取り組み発表の評価順位を合計し序列を決定する。

平成二七年三月のことでした。第一一回全国和牛能力共進会宮城県推進協議会会長平木場 宗一様より宮崎県立高鍋農業高等学校へ特別出品枠を頂きました。本校には平成一九年の宮崎県畜産共進会において、「みねこひめ三」号が見事グランドチャンピオンに輝いた経験があります。しかし、平成二二年に児湯地域を襲った口蹄疫により、三三五頭の豚・牛とともに殺処分となりました。「みねこひめ三」号の産みの親でもある都農町で繁殖経営をされている黒木さん宅も口蹄疫により全頭殺処分となったことを機会に、「宮崎牛の未来を若い人に託したい」という一心で本校にヘルパーとして通い、経験や技術を伝承してこられました。その黒木さんに「全共対

策アドバイザー」として協力をして頂き、口蹄疫からの復興を全国の方々に発信するという想いを伝えることを念頭に置きながら今回の全共に臨むことにしました。



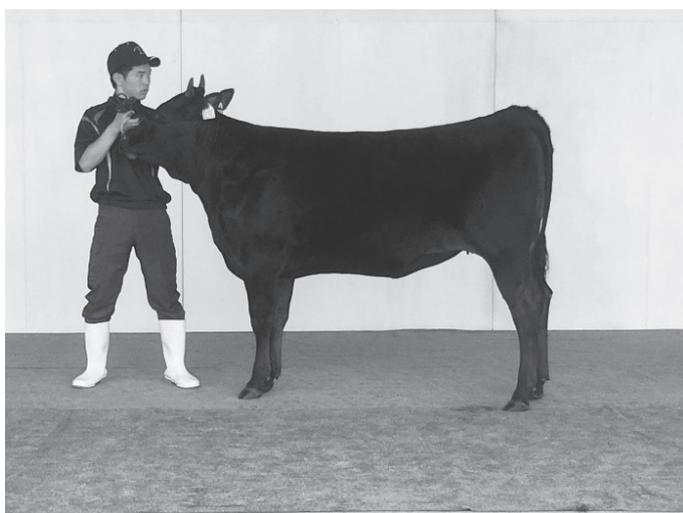
復興特別出品区「高校の部」の参加校は次の一四校です。

岩手県立盛岡農業高等学校
 福島県立福島明成高等学校
 群馬県立中之条高等学校
 京都府立農芸高等学校
 鳥取県立倉吉農業高等学校
 長崎県立北松農業高等学校
 宮崎県立高鍋農業高等学校

宮城県柴田農林高等学校
 栃木県立鹿沼南高等学校
 岐阜県立飛騨高山高等学校
 兵庫県立但馬農業高等学校
 岡山県立瀬戸南高等学校
 大分県立三重総合高等学校久住校
 鹿児島県立市来農芸高等学校

そして、わが高鍋農業高校から出品した牛は次のとおりです。

名号 「もみひめ」号
 生年月日 平成二八年六月二三日
 個体式別番号 一四〇六〇一五五七五―五
 血統 (父) 秀正実 (祖父) 安重守 (曾祖父) 忠富士



二 歴史と伝統の学校「宮崎県立高鍋農業高等学校」

高鍋農業高等学校は、旧高鍋藩校「明倫堂」の教えを引き継ぎ、一―五年を迎える長い歴史と伝統を持つ農業高校です。学校は、舞鶴城の跡地にあり、お堀に囲まれた自然豊かな場所にあります。

平成二六年の学科改編により、園芸科学科（野菜、草花、果樹）、食品科学科（食品加工、乳製品加工）、フードビジネス科（六次産業、流通、販売）、畜産科学科（酪農、肉用牛、養豚）の四学科が設置されています。

昭和三九年に文部省指定自営者育成高等学校（現在は農業経営者育成高等学校）の指定を受け、農業経営者の育成を目的に、園芸科学科、畜産科学科は全員三年間「明倫寮」で寮生活を送ります。（食品科学科、フードビジネス科は希望入寮）



三 畜産科学科の紹介

畜産科学科は、乳牛、和牛、豚の飼育や畜産物の販売、畜産に関する基礎的な知識・技術について座学と実習を通して専門的に学習できる学科です。

養豚部門は、平成二八年、二九年と二年連続、都農町・ミヤチク都農工場に健康な肉豚を出荷した割合がずばぬけていたとして、県都農食肉衛生検査所から表彰を受けました。酪農部門は、平成三〇年四月に静岡県で開催された、第九回全日本ブラックアンドホワイトショウ「高校の部」において第二位を獲得しています。そのような、県内でもトップレベルの畜産を学べる農業高校です。

ところで、平成二二年に本県の児湯地域で発生した家畜伝染病「口蹄疫」により、宮崎県内では、二九万七八〇八頭の尊い家畜の命が犠牲になりました。当時、本校の舞鶴牧場では、生徒の立ち入りを禁止。消毒、飼養管理はすべて職員で対応していましたが、乳牛の搾乳中に水泡を確認。虚しく、本校でも口蹄疫が発生しました。殺処分の前日も、乳牛一頭の新たな命が誕生しました。しかし、平成二二年五月二五日、乳牛三二頭、肉用牛二二頭、豚二八一頭を殺処分しました。県内全域から生徒が入学しており、口蹄疫発生後は、寮から自宅に帰省することもできず、今まで優しく愛情を持って育ててきた家畜が殺処分されることは、心が痛いほど辛かったことだと思います。牧場から、家畜がいなくなり、生徒は実習をすることができず、家畜に触れたくても触れることができない辛い経験をしてきたと思います。

しかし、様々なご支援のお陰もあり、現在ではこのような大きな被害から復興してきました。



口蹄疫により殺処分され、埋却された後の畜産魂碑。



口蹄疫で真っ白になった牛舎。



山形県米澤佐藤畜産より贈呈された子牛

四 子牛の贈呈「みちみち五」号について

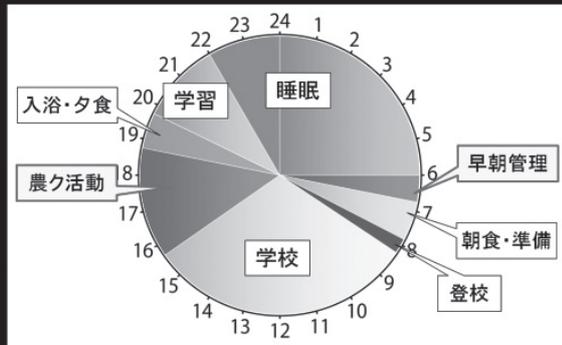
殺処分により、学校の舞鶴牧場から家畜が一頭もいなくなりましたが、山形県米沢市で、肥育経営をしていらつしやる、米澤佐藤畜産社長佐藤秀彌様より、雌子牛一頭を寄贈して頂きました。この子牛は口蹄疫終息後、児湯家畜市場で開催された初のセリ市で二六〇万円でセリ落とされたものです。佐藤様は、二ヶ月に一回開催される児湯地域から子牛を導入され、雌子牛を三五ヶ月間肥育し「鷹山牛」として販売されています。上杉鷹山公が縁で高鍋町と山形県米沢市は姉妹都市となっていることから、高鍋農業高校の生徒の為にという想いで寄贈されたと伺っております。そのような中、今回、第一一回全国和牛能力共進会が東北で開催されたことは、深い縁を感じました。

五 農業経営者育成を担う「明倫寮」

校舎から少し離れた、高鍋の街が一望できる高台の上に、「明倫寮」があります。生徒は、この明倫寮にて生活を共にしています。普段は、朝六時に起床。前庭で全体点呼を受け、各部屋の清掃をします。居室は二人部屋で、学年の異なる生徒が同じ部屋で過ごします。清掃の後は、食事を摂り、七時を過ぎると畜産科学科の生徒は、朝の家畜の飼養管理で、舞鶴牧場へ向かいます。一時間程度の管理を終えてから、学校へ登校し、授業を受けます。

放課後の農業クラブ活動、部活動を終えると、一八時四五分に全員帰寮し、食事、入浴を済ませ、二〇時から二二時まで学習を行います。そして二二時には消灯になりますが、畜産科学科は、将来の畜産を担う人材育成を目的に夜の牛の分娩対応なども行います。

生徒の1日の流れ



六 農業クラブ「肉用牛経営研究班」

全国の農業高校生は、全員農業クラブ活動に取り組むことになっています。農業クラブは専門ごとに研究班があり、本校の畜産科学科肉用牛経営研究班には、一年生二二名・二年生一三名・三年生一二名が所属していました。

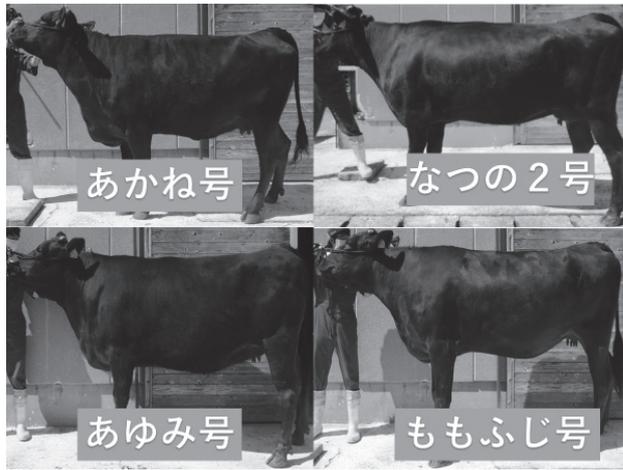
その農業クラブとは別に、部活動として「自主活動班」と呼ばれる肉用牛部に七名が所属しており、その七名の生徒を中心に全共に向けて取り組みました。



七 高鍋農業高校の全共に向けた準備

① 全共候補牛の誕生

平成二七年高鍋農業高校には、一三頭の母牛がいましたが、全共出品条件に見合った分娩が可能な母牛は四頭でした。そして、二頭の生年月日が合う雌子牛が誕生しました。



母牛名号	分娩日	子牛名号	血統
あかね	H28. 7.4	♂ 耕太郎	耕富士-勝平正-安平
なつの2	H28.3.22	♀ なつみひめ	美徳国-福之国-福桜
あゆみ	H28.6.18	♂ 純之介	美徳国-梅福6-福之国
ももふじ	H28.6.23	♀ ももみひめ	秀正実-安重守-忠富士



「なつみひめ」号



「ももみひめ」号

② エサ箱の改善

当時、牛舎は、エサ箱がブロックできており、牛房の片隅に配置してあったため、エサを食べる際に牛が壁に寄りかかり、牛の立ち姿勢に影響することを全国和牛登録協会宮崎県支部の方に指摘されました。そこで、牛房の中心になるようにエサ箱を設置し直しました。



③ 飼養管理

牛の審査栄養度判定では牛の発育を左右する日頃の飼養管理が重要となります。その審査は、き甲・背・肋・腰角・臀・尾根部の触診と栄養度です。その栄養度を決める飼料は大きく二つに分けられます。

一つは粗飼料です。

粗飼料は、牛の腹作りにおいて重要であり、栄養価、品質においては特に大切です。粗飼料は、稲ワラ、オーツヘイ、イタリアン乾草、青刈り（トウモロコシ・エン麦・イタリアンライグラス*時期によって変わる）を吹き上げカッターで細断して給与しました。

もう一つは濃厚飼料です。

粗飼料の不足を補う、濃厚飼料は、子牛マニュアル飼養管理を参考にしながら、牛の状態に合わせて給与しました。

朝七時と夕方四時に給与を行いました。給与者と給与量を記録させることで、常に牛の状態を把握するという意識を身に付けさせました。熱があるのではないか、下痢をしていないか、脱水を起こしていないかなど、ちよつとした牛の変化に気づき、早目に処置、対応をすることが、発育に大きく影響してくるということを生徒は学んだと思っています。

④ 牛洗い・毛刈り・削蹄・引き運動

牛の産まれ持っている能力を十分に引き出す飼育者は牛の美点（特に優れている部分）を伸ばし、惜点（惜まれる部分）を少なくすることで「品位・資質」を作り上げます。生徒たちも優れた飼育者を目指して日々の管理に取り組みました。

ア、牛洗い

牛を一日一回洗いました。ホウキで汚れを落とし、石鹸を使い、ブラシで擦っていきます。洗ったら、水で流し、水をしっかりきりタオルで良く拭いて乾かします。最後に、ブラシで毛を起こしていきます。生徒は休日も休まずにこの作業を行いました。



イ、毛刈り

毛刈りは、牛の輪郭の鮮明さを出す技術です。バリカン、立ちバサミ、隙バサミを用いて毛刈りを行いました。大変難しかったため、アドバイザーの黒木さんから指導を頂きました。毛を切った後の牛を

頭に浮かべながら、毛を刈りますが、頭から前駆にかけての部分は特に高い技術が必要です。この毛刈りによって牛の体の移行、体紋まりを良く見せることができます。

ウ、削蹄

蹄を削る技術である削蹄は、牛を正しい肢勢にするために必要です。外向きに脚が開くと、肢の強さや、品位が下がるからです。削蹄を行うことで、体上線がまっすぐになり、体のバランスが良くなります。



エ、体位測定

管理の成果を客観的に把握するために、毎月一回、牛の体位測定を行いました。測定項目は、体高・十字部高・体長・胸囲・胸深・胸幅・尻長・腰角幅・かん幅・坐骨幅です。牛の発育の目安となる発育曲線の数値として体高一・五〇以上は優等賞の目安とする厳しい全共の審査基準がありますので、生徒たちは発育の数値を目で確認すること、記録の重要性を感じたことと思います。



八 児湯郡育成共進会グランドチャンピオン受賞

平成二八年一〇月、児湯郡・西都市の和牛繁殖農家の母牛を評価する共進会が、新富町の児湯地域家畜市場にて、八年ぶりに開催されました。出品牛三六頭の中から、本校の一七ヵ月齢の「なつひめ一」号（父 勝平正 母の父 福之国）がグランドチャンピオンとなり県知事賞を受賞しました。生徒らにとっては全共を前に大きな弾みになりました。



九 全共参加の成果

① 関係機関との連携

全共に出品するにあたり、宮崎県畜産振興課、公益財団法人全国和牛登録協会宮崎県支部、児湯畜産連合会から、牧場に来て頂き、牛の管理、調教等について指導して頂きました。生徒は、普段学校で教職員から学んでいます。外部の方からご指導を頂くことで、農家と同じように学べる貴重な機会であったと思います。

また、高鍋町役場、JA児湯の方からも激励を頂いたり、河野知事にも取り組み発表についてご助言を頂くなど、まさにチーム宮崎としての参加であることを強く感じました。



② 猛暑対策

七月、八月と本県の夏は非常に暑い猛暑日が続きました。牛への「ストレス」を押さえ、牛への負担をかけないように、朝夕の涼しい時間帯に管理を行いました。朝五時過ぎから引き運動を行い、夕方六時頃に調教を行いました。生徒は一日も休まずに牛の管理に取り組みました。

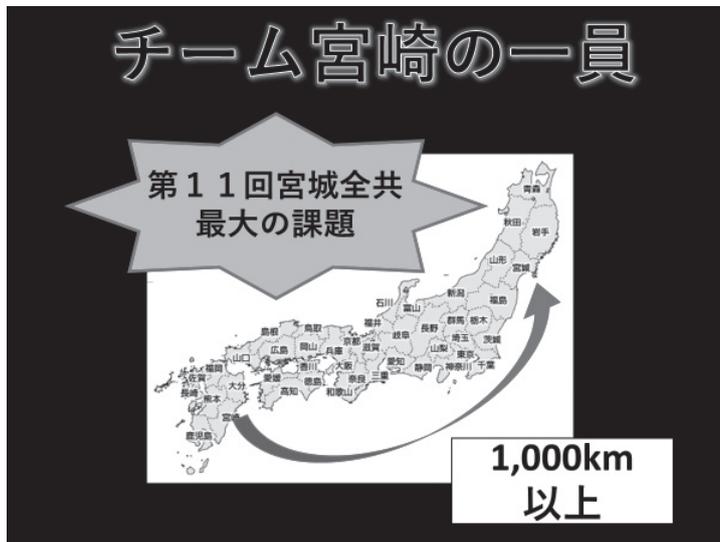


③ チーム宮崎の課題

全共会場は一七〇〇キロ離れた宮城県でしたので、輸送対策や水の確保という大きな課題がありました。本県は現地視察や輸送試験、水の確保のための対策をしてきました。全共三連覇に向けて牛のことを第一に考え、牛を万全にして勝負をするということを実感しま

した。

本番は九月とはいえ、気温が三〇℃近くまで上がりました。長距離輸送での暑さ、牛舎での暑さも考え、扇風機を配置するなどの工夫もありました。全国和牛登録協会宮崎県支部の長友局長が、「まずは、スタートラインに並ぶことが大切。」と常に言っておられました。出品した「ももみひめ」号は、宮城県に到着した際には、ほとんど疲れていませんでした。本当に宮崎県の全共に向けた準備の凄さを感じました。



④ 会場での飼養管理、牛洗い

全共会場に牛が到着し、牛に少しずつエサを給与しました。エサは通常やっている、オーツヘイやイタリアン乾草などを持っていき

ました。牛が、しっかりとエサを食べ、床に横になったときには本当に安心しました。定期的にNOSA Iの獣医の方に牛の様子を見て頂き心強く感じました。

会場には、牛洗い場が設置してありましたが、数が少ない為、一頭あたり一〇分間で洗わねばなりません。生徒は、みんなで協力して牛を洗い、自分の学校の牛を洗い終わったら、児湯地区の同じ農家の方の牛洗いを手伝っていました。

また他県の牛も牛を洗に行く際に、本県の牛舎の前を通りますが小さい石が落ちていたり、牛の蹄を傷つけてしまいますのでホウキを持って、空いている時間はキレイに清掃しました。本県は、牛舎のキレイさも日本一、マナーも日本一であることを確認できました。



⑤ 高校の部 オリエンテーション

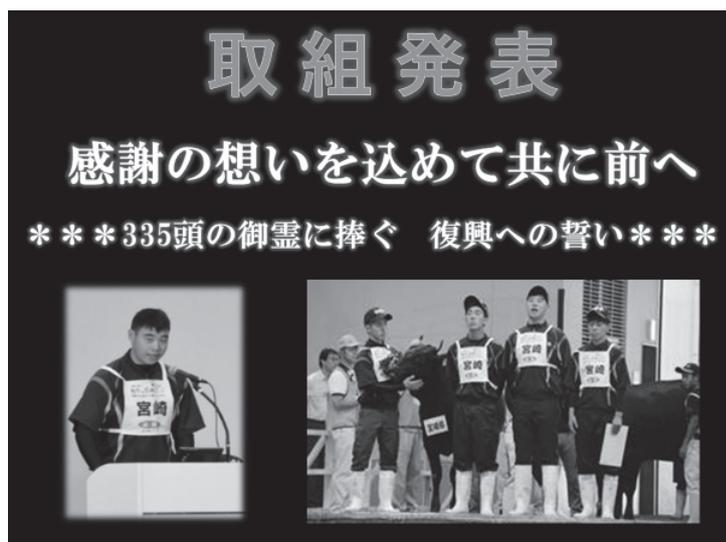
大会前日には、高校の部のオリエンテーションがありました。参加した農業高校の紹介、宮城県の高校生が作った「ズンダジェラト」のおもてなしもありました。

牛への志をもった全国各地の仲間が切磋琢磨して、地域の担い手となるために学び、その成果を全国の方に見て頂くという本当に素晴らしい大会にしたいという想いを感じました。



⑥ 高校の部 取り組み発表

出品牛の審査と同時に、取り組み発表がありました。当時畜産科学科三年の黒木唯登さん（現在、都農町で和牛繁殖を経営）が、「感謝の想いを込めて共に前へ〜三三五頭の御霊に捧ぐ復興への誓い〜」と題して発表をされました。黒木さんは、口蹄疫が本校で発生し家畜が全頭殺処分されたこと、山形県の米澤佐藤畜産様より牛を贈呈して頂いたこと、全共まで飼養管理の取り組みを約五分間で発表し、全国の方に口蹄疫からの復興と感謝を伝えました。黒木さんは、なつみひめ号を担当していましたが、予選で選抜されず、補欠牛となったことから、発表者として参加し、強い想いを伝えるために牧場や寮でも練習に取り組みました。



⑦ 高校の部 体型審査
 審査前日に、出品牛の体位測定がありました。測定結果は次の通りでした。

名号	もみひめ号							
月齢	一四ヵ月							
体高	一二六・二cm	十字部高	一二八・八cm					
体長	一五〇・八cm	胸囲	一七七cm					
胸深	六四・五cm	胸幅	四四・〇cm					
尻長	五一・〇cm	腰角幅	四七・〇cm					
かん幅	四五・〇cm	坐骨幅	二九・五cm					
体重	四二四kg							



⑧ 復興特別出品区 高校の部 総合序列
 牛の体型及び取り組み発表の審査の結果、本校は第二位に相当する優秀賞一席を頂きました。

最優秀賞	岐阜県立飛騨高山高等学校
優秀賞 一席	宮崎県立高鍋農業高等学校
二席	兵庫県立但馬農業高等学校
三席	宮城県柴田農林高等学校
四席	鹿児島県立市来農芸高等学校

ところで、宮崎県の一般の部は、次の成績を収めました。

肉牛の部 八区
内閣総理大臣賞（史上初三大会連続受賞）
第七区（総合評価群）
優等賞首席
第五区（繁殖雌牛群）
優等賞首席
*第二区（若雌の一）
優等賞五席
宮崎県立小林秀峰高等学校

今大会の一般の部に出品した小林秀峰高校は、本校と併せて「全共における高校生の活躍」として注目されました。

十 全共を終えて

① チーム宮崎の一員としての自覚

第一一回全国和牛能力共進会の「高校の部」は開会式直後の審査というところで、生徒は本場に緊張していました。プレッシャーはありましたが、今までやってきた事を信じ、牛を信じて、絶対に首席を取るという気持ちで取り組んできました。体型審査では首席だったものの総合第二位に終わり、生徒は、悔し涙を目に浮かべていました。牛舎に戻ると、宮崎県の畜産農家の方から「本当によく頑張った。素晴らしい。」と言って頂き大きな拍手をもらいました。その時に、チーム宮崎の一員であること、チーム宮崎の凄さを感じることができました。



② 登録検査

登録検査とは、母牛になるための検査です。その牛の体型を審査し、点数が付きます。「ももみひめ」号は、一〇月三十一日に児湯畜連にて登録検査を受けました。全国和牛登録協会の池田審査員から「発育・体積など素晴らしいです。ただ、惜しまれる点としては、尻の形状といった所がありました。」との講評をいただきましたが、八八・三点という高い得点を頂きました。



③ 宮崎県産業教育振興会長賞並びに宮崎県学生栄誉賞の受賞

平成三〇年二月一日、宮崎県産業教育振興会長賞を受賞しました。これは、全国二位という結果が、本県の産業教育の振興に大きく貢献をしたことを認めていただいたと言えます。

また、三月一四日には平成二九年度宮崎県学生栄誉賞を受賞しました。この賞は世界大会や全国大会等において、特に活躍した団体・個人が対象ですので、高鍋農業高校肉用牛経営研究班だけではなく、全共の高校生部門そのものの価値を評価いただいたと考えています。これらの二つの名誉ある賞をいただいて学校の名を大きく発信できました。



宮崎県産業教育振興会長賞



宮崎県学生栄誉賞受賞

十一 終わりに

今回、全国和牛能力共進会において、新設をされた「高校の部」に本県代表として出品させて頂きました。最初は何も分からず、生徒・職員に戸惑いもありましたが、それを支えて頂いたのが、都農町の黒木忠雄さん・栄子さんです。過去に岩手全共で日本一を獲得され、日本一の技術や知識、牛飼いの素晴らしさを生徒・職員へ教えて頂きました。

また、宮崎県畜産振興課、全国和牛登録協会宮崎県支部、児湯畜産連合会、獣医の方から、全共までずっと御指導を頂きながら世界に誇る「宮崎牛」の素晴らしさや、日本一に向けた取組の大切さを実感することができました。また、たくさんの農家の方を知る機会にもなりました。

高校の部第二位という結果に、生徒は悔し涙を流しました。この悔し涙が、これから先の大きな希望に変わっていくはずです。生徒の感想文に、「地域に恩返しができ、地域の人に認められる。宮崎牛を守る畜産農家になりたい。」と強い意志が書かれてありました。そして、「牛から学ぶ」ということを学びました。農業教育で一番大切なのが、実践教育です。この実践教育をこの全共を通して学ぶことができました。

私は、農業教育に携わる教員として、宮崎牛の魅力を若い人に伝え、日本一の宮崎牛をつくれる、日本一の人材（畜産後継者）を育成していきたいと思えます。全共はもちろんですが、牛一頭一頭の命を大切にし、牛に感謝、人に感謝、地域に感謝をし、日本一の畜産県、宮崎を盛り上げていこうと思えます。今回の第一回宮城全共で学んだことを生かし、次回の全共に生徒と共に挑戦したいと考えています。本当にありがとうございました。